

第 493 回情報化研究会報告

この日は参加申込が 13 名でしたが 2 名が未接続の様子でした。講師は、経済学の博士で、組織行動、ビジネス・アナリティクスを専門分野とされておられる。

まずデータサイエンティストの仕事として、データサイエンスとは、データ・アナリティクスと科学的ディシプリンを用いてデータから有用な情報と洞察を得ること、およびそのためのデータ・アナリティクス技術の開発することを目的とした研究領域との説明をいただいた。

データサイエンティストの職種として、データエンジニア、データアナリスト、データサイエンティスト、機械学習エンジニアがあるとして、各々の平均給与、経験年数による給与の違い、職務満足度の統計数値が示された。上記の后者のエンジニア程給与が高く、職務満足度が高いことが示されている。

ビジネス・アナリティクスの課題については、まずビジネス・アナリティクスとは「データから有意義なパターン（新たな情報・知識）を発見すること」として、マーケティング・アナリティクス、HR アナリティクス(ピープル・アナリティクス)、サプライチェーン・アナリティクス等があり、価値や複雑性で見ると、記述的分析、診断的分析、予測分析、処方的分析の 4 階層があり、マーケティングや人事管理に応用されている。最近の潮流としては、機械学習アルゴリズムによる予測分析やデータによる説得技術が注目されている。課題としては、ドメイン知識・理論知識の不足とデータと分析手法との適合性の問題がある。

大学におけるデータサイエンス教育の推進についての説明があった。

政府の『A I 戦略 2019』で教育改革における主な具体的目標として、デジタル社会の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・A I」の基礎などの必要な力を全ての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍するとされている。文部科学省は、『数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度』を設けている。その内容が紹介された。

海外の大学のデータサイエンス教育についても紹介された。その中で注目されたのはインドの中学校 3 年生に大学並みの教程が設けられていることだった。

企業内育成・大学教育の課題は、教育行政・大学はデータサイエンスを「広く浅く」普及させる方向になっていて探求する面に課題がある。またデータ分析を意思決定に活かすための教育が不足しているとのことだった。

質疑応答は色々な面からの質問が出され、予定時間を超えてしまい終了とした。
